

読売新聞 きょう（9月15日）のイチ押し

一面、社会面 KADOKAWA会長逮捕

東京五輪・パラリンピックを巡る汚職事件で、東京地検特捜部は14日、出版大手「KADOKAWA」会長の角川歴彦容疑者を贈賄容疑で逮捕しました。

- ★ 角川容疑者は、同社元専務の芳原世幸、元担当室長の馬庭教二両容疑者と共謀。大会スポンサーに選定されるよう大会組織委理事だった高橋治之容疑者に依頼し、便宜を図ってもらった謝礼などとして、計約6900万円の賄賂を提供した疑いがもたれています。
- ★ KADOKAWAは1945年創業。角川容疑者は創業家出身で、30年近くトップの座にありました。電子書籍やゲームなどの新しい事業を推し進め、通信制の高校開校や文化複合施設をオープンさせるなどの経営多角化で、22年3月期の売上高は過去最高を記録しました。

一面、経済面 神戸空港 国際線就航へ

神戸空港について、地元自治体や経済界が2030年をめどに国際線の就航を認める方向で調整していることがわかりました。18日に開かれる「関西3空港懇談会」で合意する見通しです。

- ★ 2006年に開港した神戸空港は、国内線専用と位置づけられてきました。しかし、将来の需要予測では関空の発着枠に余裕がなくなり、需要増に対応するには、神戸の国際化が必要と判断されたようです。
- ★ 自治体間の温度差は依然あります。神戸市の幹部は「関西経済発展のためには神戸空港の国際化が不可欠」と話す一方、吉村大阪知事は「府の基本的な考え方は『関空ファースト』に変わりない」としています。

他紙と比べて

日本維新の会が国政に進出してから28日で10年となります。野党第1党の座をうかがうまでに伸長した党の現状と課題を政治面で3回にわたってまとめます。初回は、新しく代表に就いた馬場伸幸氏に対する党内の反応です。